高度経済成長の光と影

経済の急速な成長は、暮らしにどのような変化と課題をもたらしたか

高度経済成長（1950年代半ば〜1973年ごろ）：重化学工業が発展し、経済が急速に成長する

光：暮らしの向上

- 電化製品（テレビ・洗濯機・冷蔵庫）が広まり、
  のちに自動車・カラーテレビ・クーラーも
- 1964年 東海道新幹線の開業、東京オリンピック
- 高速道路の整備、交通が便利になる
- 1968年 国民総生産が資本主義国で第2位に
- 所得が増え、進学する人もふえる

影：生まれた課題

- 公害：四大公害病（水俣病・新潟水俣病・
  イタイイタイ病・四日市ぜんそく）など
- 都市の過密：住宅不足、交通渋滞、通勤ラッシュ
- 農村の過疎：若い人が都市へ移る
- 交通事故の増加

1973年 石油危機

石油の値段が急に上がり、
高度経済成長が終わる

対策

1967年 公害対策基本法、1971年 環境庁の設置
被害を受けた人々の裁判で、企業の責任が問われる

公害の被害を受けた人の姿は描いていない。成長率などの数値は入れていない。